

第 5 回総合教育会議 議事録

司会：それでは定刻となりましたので、只今より平成 27 年度第 5 回総合教育会議を開催します。よろしくお願いします。

まず、前回会議の議事録についてですが、現在、委員の皆様にもご確認いただきました通り、知立市ホームページにて、公開をいたしております。

また、前回会議において作成いたしました、知立市教育大綱（案）をもちまして、パブリックコメントを実施して参りますので、お手元にあります資料をご確認のほどよろしくお願いいたします。

なお、本日は、議題 2 について、関係部課長にも出席いただいております。

それでは、これより、議長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

市長：それでは早速、議題 1、教育大綱についてですが、お手元にあります資料 1 をご覧ください。前回会議において、この通り最終案として決定いたしました。この後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

事務局：知立市教育大綱（案）につきましては、この後、1 月 18 日より 1 ヶ月間、パブリックコメントを実施いたします。パブリックコメントの詳細に関しましては、資料 2 の通りです。意見があった場合は、修正対応をし、再度 3 月 11 日金曜日の総合教育会議の場でご報告させていただきます。

なお、かねてより検討をしておりました、教育大綱の公表方法についてですが、他市の状況を確認しましたところ、碧南市は大綱のパブリックコメント実施後、HP にて公表しているとのことでした。

高浜市も同様にパブコメを実施後既に HP と広報で公表したとのことでした。安城市は現在パブリックコメント中ですが、公表に関しては HP に掲載する形での検討をしているとのことでした。刈谷市は、12 月 17 日よりパブコメを実施し、HP と広報で公表し、あわせて学校配布等の方法を検討しているとのことでした。

各市ともに、発表はホームページと広報を主としているとことで、特にシンポジウムやフォーラムのような企画を行ってはいないとのことで

した。知立市といたしましては、近隣市と同様にパブリックコメントを行うことで市民への周知を行い、結果をホームページと広報にて報告する予定であります。また、総合計画策定の際には、キックオフフォーラムを行いましたので、その計画を基礎として参酌し、策定いたしました教育大綱も、教育の基本的方針については一定程度市民への理解が既に進んでおり、併せてパブコメ、HP、広報を利用することで十分に周知され则认为しておりますが、予算の関係もありますので、市主催の教育関連行事において大綱について触れていきたいと思ひます。

市長：ただいま、事務局より説明しました点につきまして、委員の皆様はご意見ありますでしょうか。

蔭山：こだわっているわけではありませんが、新しく教育大綱を策定したということが、積極的にPRして欲しいと思っておりますので、検討して欲しいと思ひます。

市長：予算の観点よりはむしろ、拙速にPRをしていくのではなく、きちんと考えて行ってまいりたいと思ひています。

教育長：教育委員会も文化広場で開催したように、外に向けてPRしていく取り組みを行う余地もありますので、そういったところからはじめていくという考えもあると思ひます。

竹内：わたしの意見としましては、例えば東小学校においては、日本語の大綱だけでは、およそ半数が読めない、ということにもなりかねないので、是非翻訳をしたものも作成してもらいたいです。

市長：市内には多国籍の市民が増えてきておりますので、対応については検討できるようにしていきたいと思ひています。

それでは続きまして、議題2の放課後施策のあり方の検討につきまして、教育部長よりお願いします。

教育部長：放課後子ども総合プランに関する、国と知立市の状況および、知立市の課題について説明します。これまで放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業は別事業として扱われてきましたが、それぞれ連携でき

ず、多様な体験活動が出来ないような状況にありました。

そのような中で、国は、放課後子ども総合プランを策定し、すべての就学児童が、放課後等を安心安全に過ごし、体験活動ができるような放課後児童クラブ、放課後子ども教室の整備を図ることとしました。国が示す、両事業の一体型の取り組みの考えとは、小学校の敷地内で両事業を実施し、共働き家庭を含めたすべての児童が、放課後子ども教室が行う共通プログラムに参加できるというようなものです。また、連携による実施は、学校敷地外で実施する場合も放課後子ども教室が行う共通プログラムに参加できることとしています。実施に当たっては、積極的な学校施設の利用、家庭・学校、両事業の密な連携が必要であるとされています。そして、総合教育会議を利用し放課後児童クラブ、子ども教室のあり方について、十分に協議することが重要とされています。

さらに国は学校施設の長寿命化に併せて複合化も重要であるとしています。

続きまして知立市の状況ですが、知立市の場合、すべての小学校区で放課後児童クラブ、放課後子ども教室を設置しています。放課後子ども教室は学校の余裕教室を利用しています。放課後児童クラブの実施場所は、知立、来迎寺、八ツ田、知立西小学校区は学校隣接地で実施しています。猿渡、知立東、知立南小学校区は、学校と離れた施設で実施しています。それぞれは独立して事業を実施しております。参加費用は、それぞれ無料でしたが、放課後児童クラブについては有料化の検討をしています。知立市の課題としては、両事業の児童が交流を図れていない点、放課後児童クラブ室では、面積は不足しているクラブがありますので改善が必要です。

学校教育課長：放課後児童クラブと放課後子ども教室の違いを説明します。趣旨については、共稼ぎ課程などの放課後留守家庭については放課後児童クラブ、すべての家庭に関して対象とし、子どもの安心できる居場所作りを目的としているのが放課後子ども教室となります。児童クラブにつきましては、小学校1年生から4年生まで。放課後子ども教室は1年から6年生までとなっております。

放課後子ども教室につきまして、登録者数ですが、低学年が多い傾向がありますが、全体としては増えていっております。内容については、宿題をしたり読書をしたりゲームをしたりといった内容や、授業後の時間帯には運動場で遊んだりしております。

放課後児童クラブについて、子ども課長より報告します。児童クラブの登録数ですが、7施設9クラブにおいて実施しておりますが、来迎寺、花山

においては定員に対し、170%、200%が現状です。児童一人あたりの床面積は国の基準を超えておりますが、知立市条例で経過措置をとっております。児童数は年々増えております。

（市長）説明のとおりですが、委員の皆様からご意見ありましたら

（宇納）子ども教室と児童クラブの時間の違いに関して、もしくは、二つ同時に入れない、また年度途中で入れないなどの、途中で変えることはできますか。例えば児童クラブを4年まで、子ども教室を5年からという点は。児童クラブでできた友達との関係もあると思いますし、そういった、5年生以降の観点は。個人的には、学校のみではなく、高学年児童の放課後もケアできるといいなという思いはあります。

児童クラブの指導計画の中に、例えば、自由遊びというものがあるようですが、児童クラブの目標と合致しないかもしれないですが、学業の観点があってもいいと思います。子どもが小学校でいる間の対応が、印象ですけれども、もう少しあってもいいのでは、と思います。

（蔭山）名古屋市で放課後子ども教室の制度に携わった経験がありますが、民間の放課後保育との兼ね合いが問題だったのですが、知立市には民間の学童保育はありますか。

（子ども課長）ありません

（蔭山）健康上の問題から、児童に何か食事をさせる必要があるのではという観点から、その食事の観点をどのようにすべきかという問題がありまして、名古屋市では、5時半まで無料、それ以降は有料という体制をとりながら、放課後子ども教室、児童クラブを一体型で進めていました。それぞれ、目的が違い、児童クラブは福祉的な観点がありますが、大きく目的が相違していないとも言えるのではないかという理由でした。最初からどちらも無料でやっている知立市は、むしろ一体型にしやすいのでは。また、放課後子ども教室については、目的の一つに、空き教室利用があったのですが、そのため、子ども教室は校内に設けるという制限があるのですが、知立の現状を考えますと、その点にことさらこだわっては、放課後の子どもの現状に対応していくことは難しいのではないかと考えております。

（教育長）今の蔭山委員の発言のとおりで、教室の面積の点は確かに問題となるところなのですが、一度、子どもについての検討を中心に考えていくべきときなのではと思います。そして、さらに言えば、その前提として、子どもを持つ親が安心して子育てをできる、安心して女性も社会で活躍できる社会を作っていく、という観点が非常に重要なのではないのかなと思います。

知立に関して言えば、確かに教室が足りなくなっておりますし、仮に児童クラブが有料化となれば、児童が子ども教室へと移動する可能性もあるので、複合的に検討する必要性もあると思います。

ただ、一体型、連携型という言葉はありますが、すべてその型に当てはめることが難しい事例もありますので、柔軟に考えるべきだとも思います。

（蔭山）指導者という観点も難しい視点で、子ども教室と児童クラブの求める指導者というものにずれがありますので、どちらの理念に基づき指導するのか、それが指導者の採用時に問題となるのではないかと思います。

（教育長）おそらくですが、一体型や連携型が想定しているのは、それぞれ独立しており、その中で連携を深めていくというものではなかったでしょうか。

（子ども課長）はい、文科省と厚生省がそれぞれ補助をおこなっておりますので、一体型も連携型もそれぞれ独立した体制は残したまま、連携をしていくという制限はあります。

（蔭山）それぞれのプログラムを考えますと、例えば集団生活を学んでいく姿勢なのは、児童クラブの方針ですが、ただ、それは結局のところ、親や子どもにとっては、同じような内容であってほしいと望んでいるところもあると思います。

今の児童クラブと子ども教室の子どもたちの交流はありますか。

（教育長）現状ではないです。その点も見直すべき点としてあるんだと思います。

（太田）自分の子どもは子ども教室を利用しておりましたが、年度の途中で登録したい、という利用がかなわないところや、帰宅時間がやはり早い

のかなという印象でした。

(蔭山) 実際、児童は子ども教室をととても楽しみにしているようですから、よりより体制づくりに期待したいです。

(教育長) 先ほど宇納委員もおっしゃってましたが、学習面もそして、スポーツや文化学習など、教育という点もやはり、子ども教室が担う部分もでてくるのではないのかなと思います。

(蔭山) 教室が足りなくなるという問題点については、今後どのようなようになっていくのでしょうか。

(市長) 自分の思いとしましては、花山に関して言いますと、知立小学校の放課後子ども教室の一部を借りて、来迎寺に関しては、児童クラブを増設し、放課後子ども教室を受け入れていく、これは、少人数学級を拡大していく、というビジョンを持っておりますので、その兼ね合いもあります。

(蔭山) 懸念ではありますが、違う場所で行うことについて、移動する、という時間のフォローが問題になると思います。分離とはいえ、あまり離れるのは難しいのではないか、事故の発生は回避しないといけませんから、この人手を検討すべきところだと思います。

(市長) 本日は、難しい問題について協議させていただいたということで、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

(企画部長)

次回会議は3月11日(金)1時15分より第1会議室にて行います。よろしくをお願いします。